

日本語教育基礎演習

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	岩堀 容子	指定なし	木曜日 2時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標
日本語教育の授業とはどのようなものかイメージを持つとともに、歴史的に発展してきたさまざまな語学教授法の理論、実際の教育活動に必要な知識や概念、技術などを学ぶ。日本国内の日本語学校や大学の留学生別科などの実際の教育についても、教師の経験を踏まえて、紹介する。

その他

教科書	「新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門」(アスク)・『日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版』ヒューマン・アカデミー 「みんなの日本語初級」(・)(スリーエーネットワーク) 「新・はじめての日本語教育基本用語辞典」(アスク)
参考文献	授業中に適宜紹介する
学習内容 授業形態	この授業では、後期、自らが教材について分析し、練習活動や授業計画を立てることを目的としているので、各自、受動的な態度ではなく、積極的に取り組んでいただきたい。
留意点	基礎知識として理解するだけでなく、それを身につけて、実践的に応用する力が求められる科目。
授業時間以外の学習	課題や教室活動の作成など、各自が調べたり、考えたり、作成したりする内容が多い。
評価方法	授業への取り組み姿勢、授業への参加態度、課題の達成レベルにより、総合的に判断する。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	日本語教育の基礎概念
2講目	日本語教師の役割と資質
3講目	学習(教授)のスタイルとストラテジー
4講目	コースデザインの概要
5講目	コースデザインの第1段階
6講目	コースデザインの第2段階
7講目	コースデザインの第3段階
8講目	シラバスデザイン
9講目	シラバスとカリキュラム
10講目	日本語教育の教材・教具1
11講目	日本語教育の教材・教具2
12講目	日本語教育の教材・教具3
13講目	日本語教育のレベルについて1
14講目	日本語教育のレベルについて2
15講目	いろいろな教授法 まとめと確認

日本語学基礎知識

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	岩堀 容子	1年生 First Year	金曜日 5時間目	講義	通年 春学期

講座到達目標

到達目標

普段何気なく使っている日本語の意味や文のつくり方を、日本語をよく知らない人に説明したり、様々な技術を使って教育したりするには、その構造や規則など「文法」についての知識や考察力が必要である。この授業では、日本語学校や大学の留学生別科で教授経験を持つ担当講師から、現代日本語の「文法」について、日本語教師に必要な概念や知識を学び、重要な項目については、知っているだけでなく、わかりやすく説明できるように演習していく。春学期は、「文法」とはどのようなものか、日本語を使ったり学んだりする上でどのように必要なものなのかを少し考えた後、文とはどのようなものか。その構造や種類などを中心に学んでく。その後、構造の単純な「単文」について、種類と特徴を考えていく。

その他

教科書	授業中配布するプリントおよび『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』原沢伊都夫著スリーエーネットワーク、『日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版』ヒューマン・アカデミー
参考文献	『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(庵功雄他著・スリーエーネットワーク)『日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版』ヒューマン・アカデミー他、適宜紹介する。
学習内容 授業形態	いろいろな項目について、課題について考えたり、調べて発表したりする、演習形式を含む。
留意点	授業中、発言を求められることが多いので、積極的に答えてほしい。
授業時間以外の学習	
評価方法	授業への取り組み姿勢、授業への参加態度、課題への取り組み、期末課題(試験)などにより、総合的に判断する。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	<イントロダクション> 日本語学とは。日本語と国語。日本語学の分野。
2講目	<日本語文法の基礎概念> 「文法」とは。
3講目	<構文論の基礎> 文とは。
4講目	日本語の文の構造と成分。
5講目	日本語の文の特徴。
6講目	日本語の文の語順。
7講目	日本語の文の種類。
8講目	<品詞論の基礎> 品詞とは。日本語の品詞分類。
9講目	品詞の名称と基本的特徴1。
10講目	品詞の名称と基本的特徴2。
11講目	品詞の名称と基本的特徴2。
12講目	<単文の文法> 名詞と名詞文。
13講目	名詞の種類と特徴。
14講目	名詞文の種類と特徴。
15講目	まとめと確認

日本語教育基礎知識

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	木田 章代	1年生 First Year	金曜日 2時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標
<ul style="list-style-type: none">・日本語教育を実践するうえで必要となる知識を得る。・国語教育と日本語教育の違いがはっきり理解できるようにする。・外国語教授法を参考に、日本語の教え方について幅広く知り、自身の教え方に取り入れ、教案の作成、模擬授業、教壇実習の際に生かす。・試験や評価の意義を考え、より良い授業のあり方について考察、実践していく。

その他

教科書	『新・はじめての日本語教育2』『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド』(ヒューマンアカデミー)『みんなの日本語 第2版 本冊』(スリーエーネットワーク)
参考文献	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』『みんなの日本語 初級 第2版 翻訳・文法解説』(スリーエーネットワーク)
学習内容 授業形態	(春学期30時間・秋学期30時間)講義形式,グループワーク 日本語教育独特の文法体系(用語)などに対する理解を深める。学ぶ側の視線とともに教える側の視線を持つよう努力すること。この科目だけで学びが完結するのではなく、教師クラスの他教科の学びも密接に関係してくるため、総合的な視野で取り組んでほしい。
留意点	授業の内容、進度に関して、クラスのレベルやニーズに合わせてシラバスを変更することがある。
授業時間以外の学習	自ら言語を分析することを通して、言語を客観的に捉える力を養っていくため、授業以外の時にも自分や他人の言語行動を観察する姿勢を持ってほしい。
評価方法	出席、授業への参加態度、課題への取り組み、課題の提出率などにより、総合的に判断する。
実務経験と 科目の関連	日本語教師としての経験を踏まえ、実際の現場での事例も紹介する。

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	授業の進め方
2講目	世界の言語数 母語・母国語・公用語・国語
3講目	海外の日本語教育の現状 学習者の日本語学習のニーズ
4講目	日本語教育事情 国内の日本語教育 日本語学習者の推移 教師の数
5講目	日本語教育事情 外国人の受け入れ 在留資格
6講目	外国人にとって、日本は住みやすい国か
7講目	日本語教育史
8講目	評価 なぜ評価を行うのか
9講目	評価 評価の目的と時期
10講目	試験 なぜ試験を行うのか
11講目	試験 良いテストの条件
12講目	教授法 外国語教授法の変遷
13講目	教授法
14講目	教授法
15講目	春学期の振り返り 課題提出

日本語の文字語彙表記

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	青島 美紀	指定なし	水曜日 2時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標
日本語の「語彙」とは何かということ、また語彙の構成を理解し、実際に指導する方法を身につける。

その他

教科書	日本語教育 よくわかる語彙9784757433380 日本語教育能力試験完全攻略ガイド(ヒューマンアカデミー)978-4-7981-6719-0
参考文献	適宜紹介する。
学習内容 授業形態	(春学期30時間・秋学期30時間)講義形式 語彙の体系と分類 語構成 造語法 語の意味 語彙の指導法
留意点	積極的に授業に参加すること。
授業時間以外の学習	宿題として漢字検定の問題を出すので、期日までに必ず提出すること。授業後にteams上で「本日の振り返り」を課題とするので記入して提出すること。課が終了した時点で課末まとめプリントに内容を書き込み、次回授業時に提出すること。
評価方法	期末試験(50%)授業内態度(25%)課題提出(25%)で評価をする。
実務経験と 科目の関連	日本語教師としての経験を踏まえ、実際の現場でどのように語彙・文字教育をしているのか授業内容と関連付けて説明していく。

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	授業の概要と導入 言葉はどうやって教えるのか
2講目	語の体系とは何か
3講目	語彙調査 異なり語数 述べ語数
4講目	基本語彙と基礎語彙
5講目	語種 語の分類
6講目	語の認定 同音語 語形と表記
7講目	語構成 語の構成要素
8講目	複合名詞 複合動詞 畳語 派生語
9講目	造語法 変音現象
10講目	語彙の意味 単義語 多義語 類義語 反義語
11講目	語の結合 連語 慣用句 比喻
12講目	擬態語 擬音語
13講目	語の意味変化
14講目	語彙の指導
15講目	まとめと今後の課題

日本語の音声・発音

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	岩堀 容子	指定なし	金曜日 1時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標

日本語の音や一般的な言語の音について、その特徴や基礎的知識を学ぶ学問分野は、「音声学」「音韻論」などと呼ばれているが、これら分野の中から日本語の教師の基礎知識として必要な概念や用語をなど知り、「日本語教育能力検定試験」に備えるとともに、日本語学校や大学の留学生別科で教授経験を持つ担当講師から、教育現場に役立てる方法を考える。春学期では、主に単語以下の細かい単位から見た特徴を中心に学ぶ。耳の訓練と発音の練習も行う。

その他

教科書	授業時に配るプリントが重要。『新・はじめての日本語教育基本用語辞典』(高見澤孟監修・アスク)も使用する。
参考文献	『よくわかる音声23』(日本語教師・分野別マスターシリーズ)アルク、『日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版』ヒューマン・アカデミー
学習内容 授業形態	ほぼ毎回、概論的な講義だけでなく、課題の実施、提出が求められ、その内容は成績
留意点	各自の発音を録音する課題が出されることがあるので、PC、スマートホン、録音できる機材と技術が必要となる。
授業時間以外の学習	
評価方法	出席、授業への参加態度、課題への取り組み、期末課題(試験)などにより、総合的に判断する。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	<イントロダクション> 音声とは。音声学とは。音声の基本概念と音声器官の概要。
2講目	<拍と音節> 拍(モーラ)とは。
3講目	拍の特徴。特殊拍(長音、撥音、促音)。
4講目	拍と表記(ひらがな、カタカナ、ローマ字)。
5講目	拍と音節。話しことばの音変化。
6講目	拍と発話のリズム
7講目	<単音レベルの音声 1 > 母音とは。母音の決定要因と母音台形。
8講目	日本語の母音の特徴と問題点。
9講目	<単音レベルの発音 2 > 子音とは。子音と決定要因。
10講目	調音点と調音法。
11講目	日本語の子音(破裂音、鼻音)。
12講目	日本語の子音(摩擦音、ラ行音、破擦音、半母音)。
13講目	音声と音素。異音とその分布。
14講目	その他(学習者の母語と日本語の発音など)
15講目	まとめと確認。

日本語教育学研究

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	小林 潔子	2年生 Second Year	金曜日 2時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標
春学期では、教材研究および分析として、『みんなの日本語 初級』を扱う。これで初級の基本知識が完了する。様々な知識を学習し、初級知識の量と正確さ確実なものとする。日本語教師にとっての現場でのゆるがない自信の基礎を身につける。

その他

教科書	【春学期】「みんなの日本語 初級」(スリーエーネットワーク)【秋学期】「新完全マスター文法 日本語能力試験N2」(スリーエーネットワーク)
参考文献	『日本語文型辞典』『条件表現』くろしお出版、その他日本語文法、日本語学習、日本語問題集など。
学習内容 授業形態	(春学期30時間・秋学期30時間)講義形式
留意点	「教える立場」からの教材取扱の仕方と指導を学ぶこと。複数の文の使用上の差、使用法を理解する。短作文力と誤用を見極める力を養う。
授業時間以外の学習	特になし。
評価方法	授業への参加度・担当者模擬授業のレベル。
実務経験と 科目の関連	国内外での教師活動を生かし、現場で起こる問題や、学習者の弱点、母語の干渉等についても適宜経験上の話も紹介する。

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	みんなの日本語	26課-27課	27課分析表
2講目	みんなの日本語	28課-29課	29課分析表
3講目	みんなの日本語	30課-31課	31課分析表
4講目	みんなの日本語	32課-33課	33課分析表
5講目	みんなの日本語	34課-35課	35課分析表
6講目	まとめ1		
7講目	みんなの日本語	36課-37課	37課分析表
8講目	みんなの日本語	38課-39課	
9講目	みんなの日本語	40課-41課	41課分析表
10講目	みんなの日本語	42課-43課	
11講目	みんなの日本語	44課-45課	
12講目	みんなの日本語	46課-47課	46課分析表
13講目	みんなの日本語	48課-49課	49課分析表
14講目	みんなの日本語	50課	まとめ 50課分析表
15講目	総復習		

日本語学応用演習

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	岩堀 容子	1年生 First Year	金曜日 4時間目	講義	通年 春学期

講座到達目標

到達目標
「日本語学基礎知識」に引き続き、現代日本語の「文法」的事項について、日本語教師に必要な概念や知識を、日本語学校や大学の留学生別科での教授経験を持つ担当講師より学ぶ。さらに、重要な項目についてはその特徴や学習者の間違いについて、説明できるようにすることをめざす。春学期は単文レベルの文法の続きとして、動詞文を中心に重要な項目を学んでいきます。

その他

教科書	授業中に配布するプリントとともに『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』原沢伊都夫著スリーエーネットワーク、『日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版』ヒューマン・アカデミーも使用する。
参考文献	『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(庵功雄他著・スリーエーネットワーク)、『新・はじめての日本語教育基本用語辞典』(高見澤孟監修・アスク)
学習内容 授業形態	文法項目の理解のために、自ら考えたり、調べたり、それを発表しあったりという演習の形式も行われるので、積極的に参加してほしい。
留意点	
授業時間以外の学習	
評価方法	授業への取り組み姿勢、授業への参加態度、課題への取り組み、期末課題(試験)などにより、総合的に判断する。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	<単文の文法>助詞のはたらき(つづき)、
2講目	こ・そ・あ表現
3講目	動詞について。日本語のテンスとアスペクト1
4講目	日本語のテンスとアスペクト2
5講目	テンスに関する表現1
6講目	テンスに関する表現2
7講目	アスペクトに関する表現1
8講目	アスペクトに関する表現2
9講目	ボイス<ヴォイス>とは?
10講目	ボイスにかかわる表現1
11講目	ボイスにかかわる表現2
12講目	ボイスにかかわる表現3
13講目	可能の表現
14講目	授受表現
15講目	まとめと確認

実践日本語教育

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	岩堀 容子	1年生 First Year	水曜日 2時間目	指定なし	半期 春学期

講座到達目標

到達目標
<p>「日本語教育基礎演習」で習ったさまざまなことから実際の日本語の授業として受講者自身が応用していく。日本語学校や大学の留学生別科などで指導経験を持つ教師が紹介する日本語学校などでの教育の実際を参考にしながら、基本的な教授法による初級日本語授業について、自ら授業計画をたて、模擬授業を実施していく。初級レベル向け授業の実際 教室活動の流れ/教案の実際/導入のいろいろ/教壇での注意/教材教具論/教室活動(練習)のいろいろ/正確さの練習/なめらかさの練習などを復習しながら、初級の授業について考え、授業の観察と分析/教案の作成/模擬授業実施などを行う。具体的には『みんなの日本語初級』(および)の各課から・指導項目の取り出し(重要事項の確認) ・提出順序の決定と教室活動の作成・教具などの作成・模擬授業の実施と批評、などを行っていく。</p>

その他

教科書	「みんなの日本語初級」(スリーエーネットワーク)
参考文献	『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(庵功雄他著・スリーエーネットワーク)、『みんなの日本語初級』教え方の手引き、「やさしい日本語指導8 教室活動」(凡人社)他
学習内容 授業形態	この授業では、各自が担当する教材について研究し、授業計画を立て、模擬授業などを実施することを目的としているので、受講生は、受動的な態度ではなく、積極的に取り組んでいただきたい。
留意点	出席が重要!! 模擬授業は、教師役だけでは成り立たず、学生役の人の役割も重要である。また、他の人やり方を見ることから学ぶものも多いので、この授業では欠席が大きなマイナスとなる。
授業時間以外の学習	
評価方法	授業への取り組み姿勢、授業への参加態度、課題への取り組み、実施・課題の提出などにより、総合的に判断する。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	<イントロダクション> 授業の説明。これまでの内容とのかかわり。
2講目	教授法の復習と補足。
3講目	教材分析の基本復習。
4講目	最初の模擬授業と授業観察。
5講目	教材の分析、研究。授業の計画作成 1
6講目	模擬授業と授業観察 1
7講目	教材の分析、研究。授業の計画作成 2
8講目	模擬授業と授業観察 2
9講目	教材の分析、研究。授業の計画作成 3
10講目	模擬授業と授業観察 3
11講目	教材の分析、研究。授業の計画作成 4
12講目	模擬授業と授業観察 4
13講目	教材の分析、研究。授業の計画作成 5
14講目	模擬授業と授業観察 5
15講目	まとめと確認。

言語教育とコミュニケーション研究

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	小林 潔子	2年生 Second Year	金曜日 3時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標

昨今、異文化接触の機会の増大とともに、異文化理解に関する知識も以前にまして重要になった。検定試験においても同様である。異文化接触、多文化共生は時代の流れであり、我々日本人も、対応すべき問題である。この授業では、各テーマについて学びその知識を準備する。

その他

教科書	共同購入テキストを使用する。
参考文献	適宜授業内で紹介する。
学習内容 授業形態	(春学期30時間・秋学期30時間)講義形式。前期も後期も、最後に学生は授業のノートを提出する。
留意点	授業参加度を重要視する。提出物あり。講義内容は時間制約により変更することがある。
授業時間以外の学習	検定を受ける者には紹介すべき書籍がある。詳しくは授業内で説明する。
評価方法	前期、後期ともは授業への参加度。提出物。
実務経験と 科目の関連	国内外での日本語教師としての経験から、将来日本が経験する多文化社会への関心を強くもっている。その中で日本人と多文化の背景を持つ者はいかに生きていくのか。

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	異文化間教育・コミュニケーション教育1
2講目	異文化間教育・コミュニケーション教育2
3講目	異文化間教育・コミュニケーション教育3
4講目	言語教育と情報1
5講目	言語教育と情報2
6講目	言語教育と情報3(著作権)
7講目	言語知識の獲得と理解の過程1
8講目	言語知識の獲得と理解の過程2
9講目	言語知識の獲得と理解の過程3
10講目	バイリンガリズム1
11講目	バイリンガリズム2
12講目	異文化コミュニケーションと社会1
13講目	異文化コミュニケーションと社会2
14講目	異文化コミュニケーションと社会3
15講目	

日本学研究

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	松波 宏隆	2年生 Second Year	火曜日 4時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標
<ul style="list-style-type: none">・日本語教育能力検定試験の日本語史・日本語学史・日本文学史分野に対応した試験準備, ・日本文学史をはじめとした日本文化史についての一般常識の涵養,・歴史認識の必要性と問題点への理解・大学編入後に必要な単位の修得

その他

教科書	プリントを配布する
参考文献	講義中に指示する
学習内容 授業形態	講義形式
留意点	
授業時間以外の学習	特になし
評価方法	3回のレポート提出を予定している。講義内容の理解度のみで評価する。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	ガイダンス・日本史の基礎知識(時代区分・著名人の確認),
2講目	時代区分の問題点 鎌倉時代を中心に
3講目	時代区分の問題点 鎌倉時代を中心に
4講目	時代区分の問題点 鎌倉時代を中心に
5講目	儒教と武士道 田沼意次の評価を中心に
6講目	儒教と武士道 田沼意次の評価を中心に
7講目	儒教と武士道 田沼意次の評価を中心に
8講目	日本語史・日本語学史・日本文学史の概要・古事記(概要)
9講目	古事記(概要)
10講目	古事記(時代的背景)
11講目	日本書紀と大化の改新
12講目	日本書紀と大化の改新
13講目	日本書紀と大化の改新
14講目	総括
15講目	質問

日本文学と読解教育

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 専攻語学群	青島 美紀	指定なし	水曜日 3時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標
「読解」の意味を理解する。 読解を教えるための教材を選び、教える項目が取り出せる。 教案を書いて授業ができる。

その他

教科書	「新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門」(アスク)978 4?87217 515 8 「みんなの日本語初級」(・) (スリーエーネットワーク)978 4?88319 603 6・978-4-88319-646-3 「新・はじめての日本語教育基本用語辞典」(アスク)978-4-87217-516-5
参考文献	授業内で紹介
学習内容 授業形態	(春学期30時間・秋学期30時間)講義及び演習 文章を読むとはどのような過程で行われているのか理解する。 読むことを教えるには何が必要か、どのような手順で教えていくのか、具体的に学んでいく。 実際に教えるための準備を学び、最終的に教壇に立って授業を試みる。
留意点	指示した期間内に教案を提出すること。提出が遅れた場合、減点となる。教案は手書きではなく、ワープロ等で作成したものを提出すること。
授業時間以外の学習	授業で使用したプリントは、必ず復習をしておくこと。次回の内容の部分を読んでおくこと。教案は少なくとも1週間前から書き始めること。
評価方法	授業への取り組み(30%)教案内容・模擬授業(40%)課題・教案の提出状況(30%)で評価する。
実務経験と 科目の関連	現役日本語教師として実際の教育現場を紹介し、具体的な指導方法や注意点を指導する。

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	授業の概要と今後の予定
2講目	文章を読むとはどういうことか 読み方の種類について
3講目	読みの過程を理解する
4講目	初級と中級の違いとは 読解指導の流れ
5講目	教材を準備する1 教材とは
6講目	教材を準備する2 教材の使用法
7講目	テキストの分析 項目の取り出しとは
8講目	語彙の導入について
9講目	文型の導入について
10講目	演習1 教案とは何か
11講目	演習2 項目の取り出し
12講目	演習3 教案の書き方
13講目	演習4 模擬授業
14講目	演習5 模擬授業
15講目	前期総括 まとめと今後の課題

Career Studies

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 一般教養科目群	岩堀 容子	指定なし	火曜日 5時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標

日本語コミュニケーションの一般的な能力とは何かを考えるとともに、自分の専攻している分野や科目についての理解を深め、自己の取り組む分野、活動を希望する業界などにつちて理解を深める。一般的な日本語力の訓練や、日本の社会、文化についての知識を深める活動を含む。

その他

教科書	授業中に、適宜紹介する。
参考文献	授業中に、適宜紹介する。
学習内容 授業形態	演習。個人活動、グループ活動、発表、課題作成、中心。
留意点	専門分野についての補完的な学習や進路決定に必要な活動を行うので、受身的な姿勢ではなく、自発的に取り組んでほしい。
授業時間以外の学習	
評価方法	出席態度、活動内容、課題などから総合的に評価する。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	日本語コミュニケーションと日本語教育について
2講目	学科の専門内容と資格、検定試験について
3講目	日本語コミュニケーション基礎力養成(作文力、表現力)
4講目	日本語コミュニケーション基礎力養成(語彙力、理解力)
5講目	日本語コミュニケーション基礎力養成(グループ活動)
6講目	日本語コミュニケーション基礎力養成(発表)
7講目	日本語コミュニケーション基礎力養成(作文力、表現力)
8講目	日本語コミュニケーション基礎力養成(語彙力、理解力)
9講目	日本語コミュニケーション基礎力養成(グループ活動)
10講目	日本語コミュニケーション基礎力養成(発表)
11講目	自己分析とテーマ設定 1
12講目	自己分析とテーマ設定 2
13講目	個別作業及び相談活動 1
14講目	個別作業及び相談活動 2
15講目	春学期のまとめと夏季休暇中の注意、課題について

Career Studeis

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	日本語コミュニケーション学科 一般教養科目群	岩堀 容子	1年生 First Year	水曜日 1時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標

日本語コミュニケーション学科の専門科目などを通じて身につけた事柄と、自己の特性、希望についてより深く理解し、自分の将来にどう活用するかを考え、自己の専門テーマや進路などを決定していく。また、社会人として必要な、実社会で役に立つ知識や技術などを身につける訓練も行っていく。

その他

教科書	授業中に、適宜紹介する。
参考文献	授業中に、適宜紹介する。
学習内容 授業形態	演習。個人活動、グループ活動、発表、課題作成、中心。
留意点	専門分野についての補完的な学習や進路決定に必要な活動を行うので、受身的な姿勢ではなく、自発的に取り組んでほしい。
授業時間以外の学習	
評価方法	出席態度、活動内容、課題などから総合的に評価する。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	個人活動の進捗状況報告と今学期の活動内容について
2講目	日本語コミュニケーション実践力養成(語彙力、理解力)
3講目	日本語コミュニケーション実践力養成(作文力、表現力)
4講目	日本語コミュニケーション実践力養成(社会的、文化的能力)
5講目	日本語コミュニケーション実践力養成(発表)
6講目	日本語コミュニケーション実践力養成(待遇表現応用1)
7講目	日本語コミュニケーション実践力養成(待遇表現応用2)
8講目	入学試験、資格試験、就職試験、検定試験対策演習1
9講目	入学試験、資格試験、就職試験、検定試験対策演習2
10講目	自己分析とテーマ分析1
11講目	自己分析とテーマ分析2
12講目	自己分析とテーマ分析3
13講目	個別作業及び相談活動5
14講目	個別作業及び相談活動6
15講目	春学期のまとめと夏季休暇中の注意、課題について